

中山間地域対策PTにおける現場支援の考え方

基本コンセプト：次世代定住に向けた仕組みづくり

◆次世代定住とは

- 現在、中山間地域を支えているのは主に70歳代の方々であり、特に70歳代後半のいわゆる「昭和ひと桁世代」は現役引退を迎えることから、この世代に続く世代の定住が必要
- 特に、子どもの数を維持するという観点から、30歳代の子連れ夫婦をターゲットとした取組を検討

◆重点支援地区の支援

- 重点支援地区では、地元主体で基本コンセプト実現のための取組を実施。
- PTメンバーによる支援チームは、取組が「次世代定住」に向けたものになるよう市町村とともに部局連携で支援。

◆次世代定住に向けての目標

- 中山間地域研究センターが推計して算出した**年間定住組数**を最終目標としながら、各地区が計画を策定し、具体的目標を推進。

【地区の具体的な流れ】

STEP1 地区の実態把握

- カルテで地区の現状を把握
- 人口推計から将来の地区の状況を確認

中山間Cによる資料提供

【必要な定住組数を確認し、最終目標を共有】

STEP2 地区の可能性を探る

ワークショップ等

- 地域の良いところは何か
- 地域資源（地域のお宝）があるか
- 地域の困りごとは何か

地域の将来像をイメージし、
できること、やるべきことを整理

中山間Cのノウハウ提供

留意点：定住者の視点からも考える

◆定住する側の関心（新卒県内就職を含む）

①仕事 ②住居 ③子育て ④教育 ⑤防災……

これを満足するためには…

- 地域の中で仕事 + 地域に住居
- 地域の外で仕事 + 地域に住居
- 住みやすい環境づくり

STEP3 地区の計画策定

STEP2 を踏まえて、地区の計画を策定

- 定住する側と地区住民との思いをマッチ
- 役割分担と優先順位を明確化（地域運営体制）

（例）

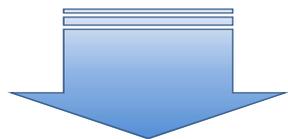
計画	具体的目標	定住者との関連	行政支援
特産品を生かした加工品づくり	耕作放棄地を利用した農産物栽培	仕事を生み出す	新規就農支援
	廃校を利用した加工場整備	仕事を生み出す 生きがい	加工場整備
	加工品の製造・販売	仕事を生み出す 生きがい	技術的支援 販売ルート開拓
空き家の利活用	空き家の調査	住居の提供	
	空き家を確保（所有者との交渉）	住居の提供	
	空き家の小改修	住居の提供	ハード整備支援

STEP4 小さな取組の実践

地域運営体制を充実し、策定した計画をもとに、できることから取り組む

◆PT チームによる支援

具体的な計画の取組において、行政の支援が必要となる部分を各専門分野のメンバーが支援にあたる



次世代定住の実現

※次世代定住のためには

地域主体でできないもので、行政主体で中山間地域への雇用・定住を促す施策を、PT 会議において幅広く検討。

【例】 特例措置、補助の嵩上げ、創設

スケジュール

中山間地域活性化計画（第3期）	H24～H27
地域の取組	H24～H27の期間中において 地域運営の仕組みづくりを確立

具体的な役割

- しまね暮らし推進課（隠岐支庁県民局、西部県民センター）
 - PT会議、重点支援地区でのファシリテイト
 - 地域資源を活用した雇用の場の創出
 - 適材の確保と地区のマッチング
- 中山間地域研究センター
 - 各種データ提供、調査、経過観察
 - 新しい定住モデルの提案
- 各課
 - 重点支援地区に対する専門分野支援
 - 中山間地域に対する優遇措置の検討

